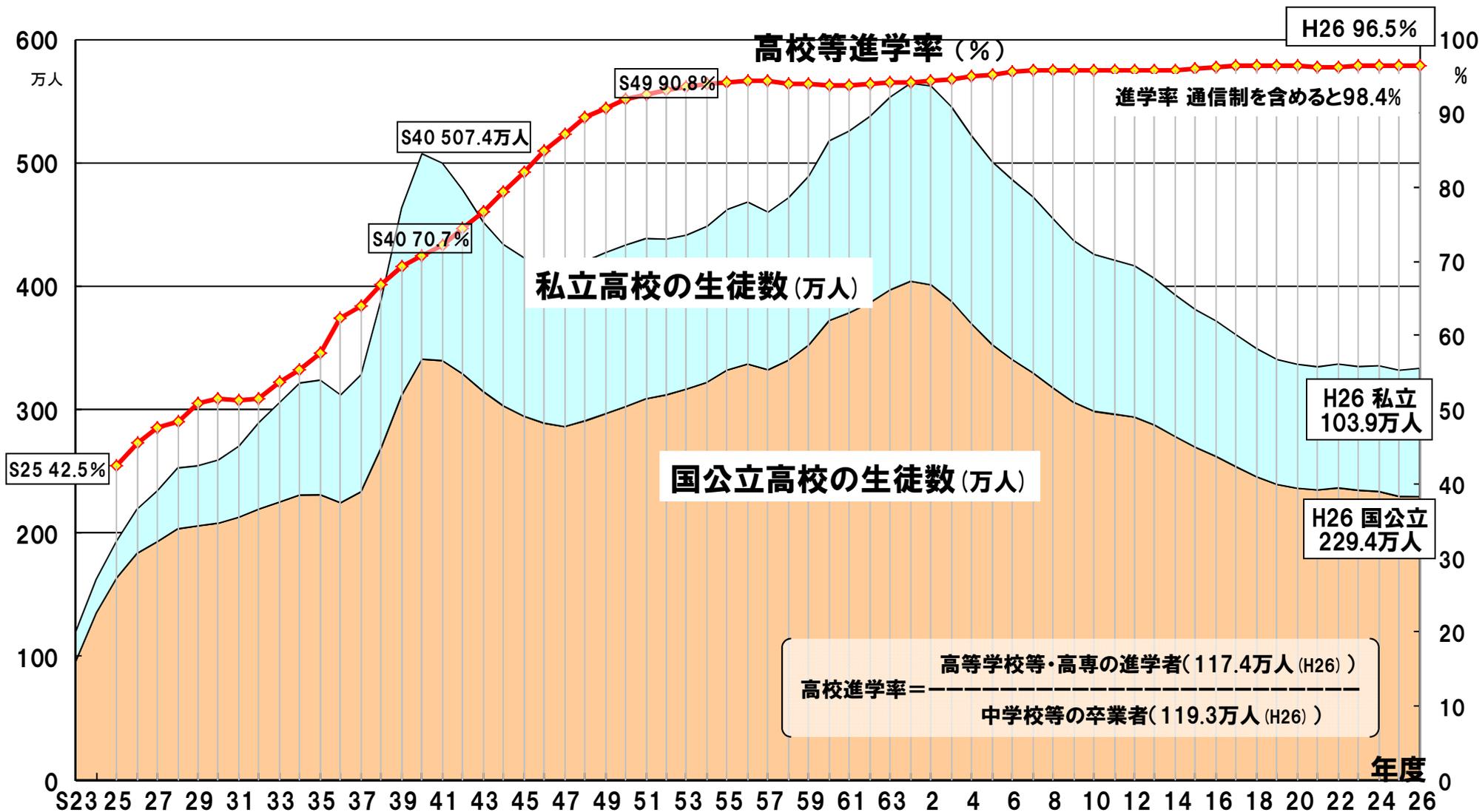


高等学校教育改革 関係資料

高等学校等への進学率[推移]

高等学校等への進学率は着実に向上し、昭和49年度に90%を超えた

(国公立の全日制・定時制の計)



学科別生徒数・学科数・学校数（平成26年度）

区 分	生徒数 (人)	比率 (%)	当該学科を 置く学校数 (延べ数)	学校数		
				単独学科	複数学科	
合 計	3,324,615		6,789	3,552	1,411	
職業 学科 (専門 高校)	小 計	628,195	18.9	2,039	615	950
	農 業	83,534	2.5	311	130	職業のみ2以上 153
	工 業	258,001	7.8	540	274	職業と他の学科 797
	商 業	206,605	6.2	647	177	
	水 産	9,398	0.3	42	21	
	家 庭	42,887	1.3	277	6	
	看 護	14,811	0.4	95	6	
	情 報	3,124	0.1	29	—	
	福 祉	9,835	0.3	98	1	
普 通 科	2,415,330	72.6	3,824	2,639	職業学科を 含まない併置校 461	
その他専門学科	105,795	3.2	570	42		
総 合 学 科	175,295	5.3	356	256		

※ 全日制・定時制のみの統計である(通信制は含まれない)。

※ 「当該学科を置く学校数」欄は、複数学科を置く学校について、それぞれの学科に計上した延べ数である。

※ 全高校数4,963校中、職業学科を置く学校(専門高校)数は、1,565校(31.5%)。

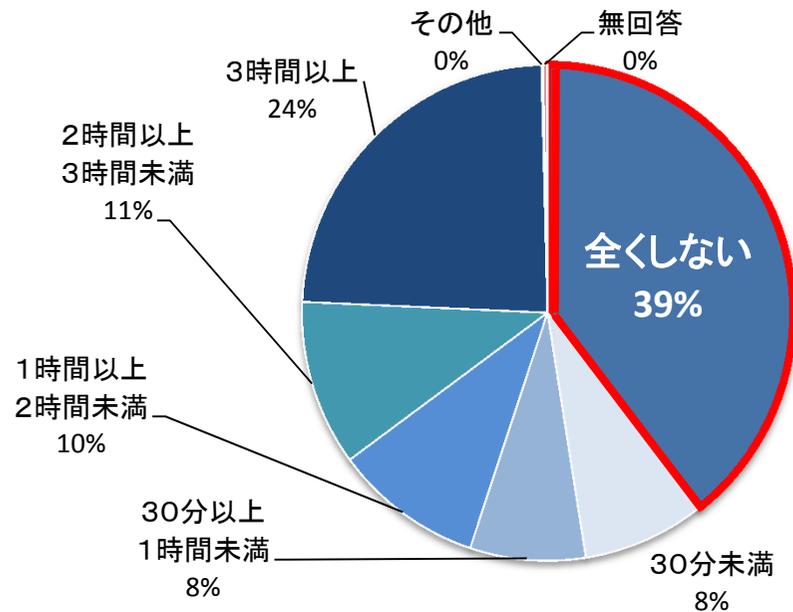
出典:文部科学省「学校基本調査(平成26年度)」

高校生の学力・学習意欲等の状況

○平日、学校の授業時間以外に全く又はほとんど勉強していない者は、高校3年生の約4割

○ボリュームゾーンである学力中間層の学習時間が大きく減少している

■高校生の家庭学習時間



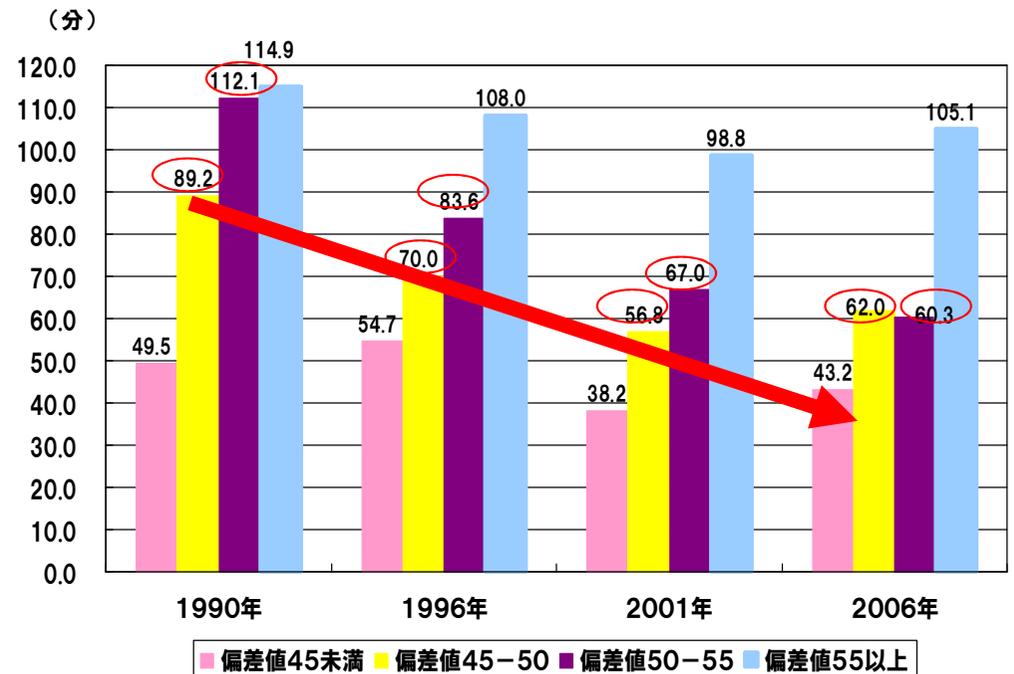
(出典) 国立教育政策研究所「平成17年度教育課程実施状況調査」

※平日の平均学習時間。土日は除く。

塾・予備校、家庭教師との学習時間を含む。

※回答人数149,753人

■高校生の学習時間の経年変化



(出典) Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

※平日の平均学習時間。土日は除く。

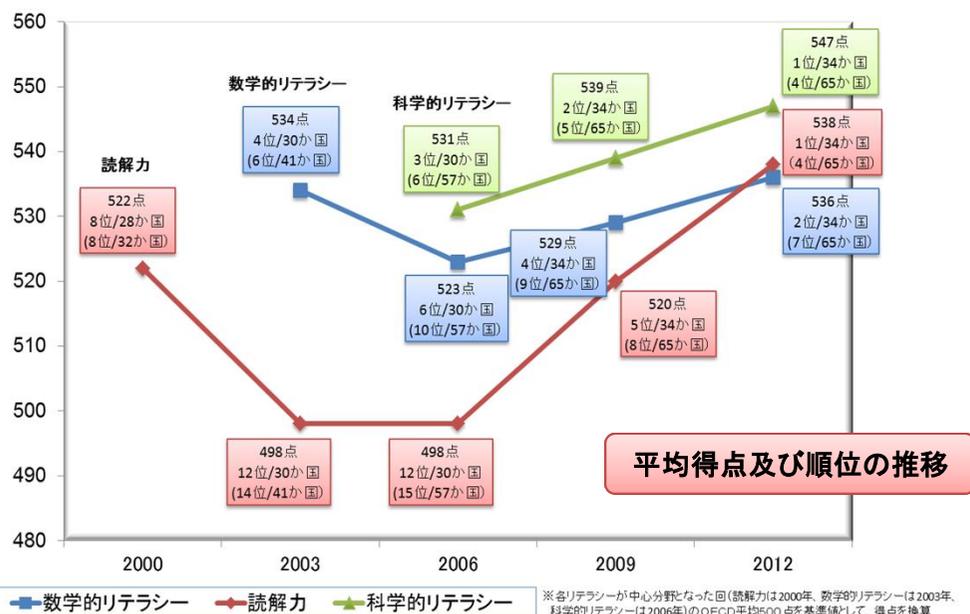
塾・予備校、家庭教師との学習時間を含む。

※サンプル数は1990年2,005人、1996年2,615人、2000年3,808人、2006年4,464人

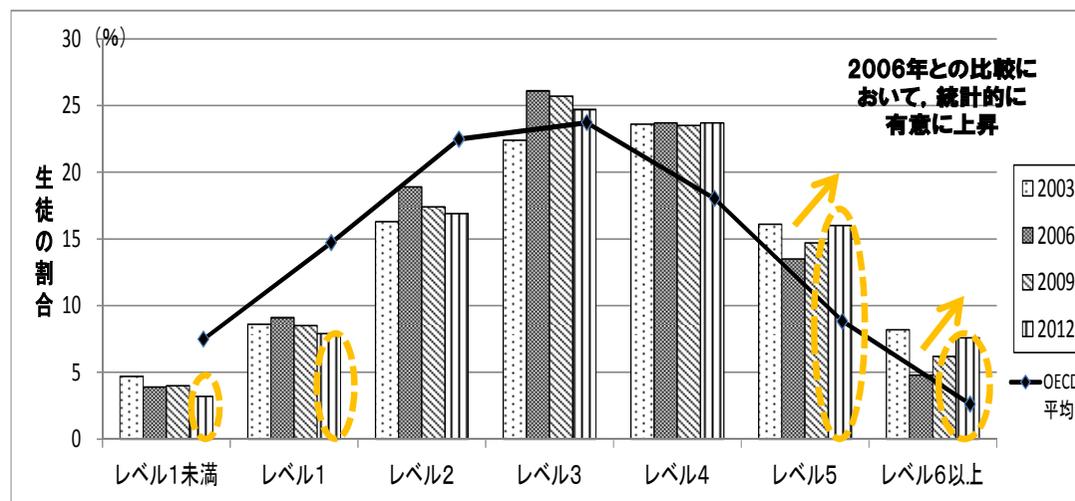
PISAから見た高校生の状況について

● 2012年調査は比較可能な調査回以降、最高の結果

- ・読解力、科学的リテラシーの2分野においてOECD諸国中トップ
- ・数学的リテラシーについて、OECD諸国中2位
- ・全分野において下位層の割合が減少し、上位層の割合が増加



我が国の習熟度レベル別割合 (PISA2012 数学的リテラシー)



【PISA生徒質問紙の結果】

「数学で学ぶ内容に興味がある」生徒の割合
(日本: 38%、OECD平均: 53%) 【PISA2012】
2003年に比べて5ポイント有意に上昇。

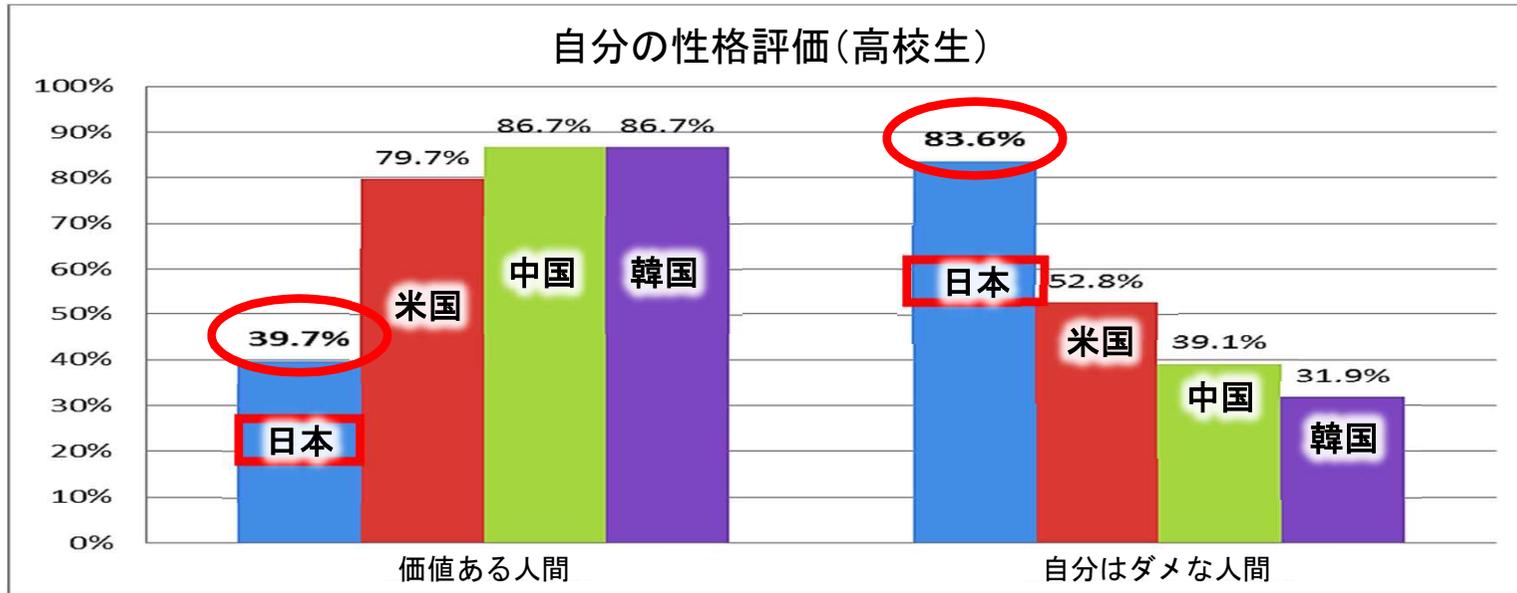
【2020年までに実現すべき成果目標】 ～ 新成長戦略(H22. 6. 18 閣議決定)

子どもの学力と挑戦力の向上: OECD生徒の学習到達度調査等で世界トップクラスの順位

- ①最上位国の平均並みに低学力層の子どもの割合の減少と高学力層の子どもの割合の増加
- ②「読解力」等の各分野毎の平均得点が、すべて現在の最上位国の平均に相当するレベルに到達
- ③各分野への興味関心について、各質問項目における肯定的な回答の割合が国際平均以上に上昇

生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識について

○米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分を価値ある人間だ」という自尊心を持っている割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。

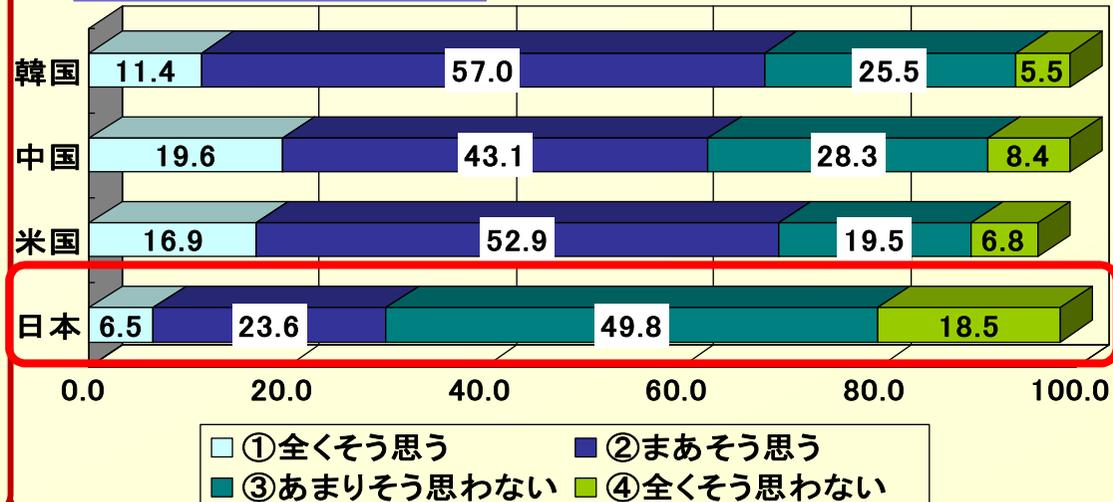
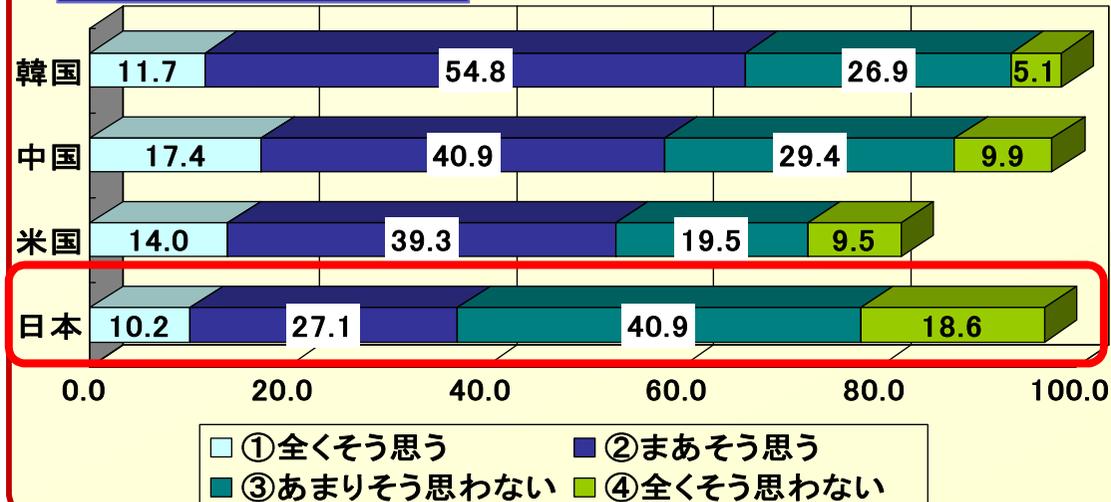


(出典)
 (財) 一ツ橋文芸教育振興会、
 (財) 日本青少年研究所
 「高校生の生活意識と留学に関する調査報告書」(2012年4月)より
 文部科学省作成

【問33-2】 私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない

中学生

高校生



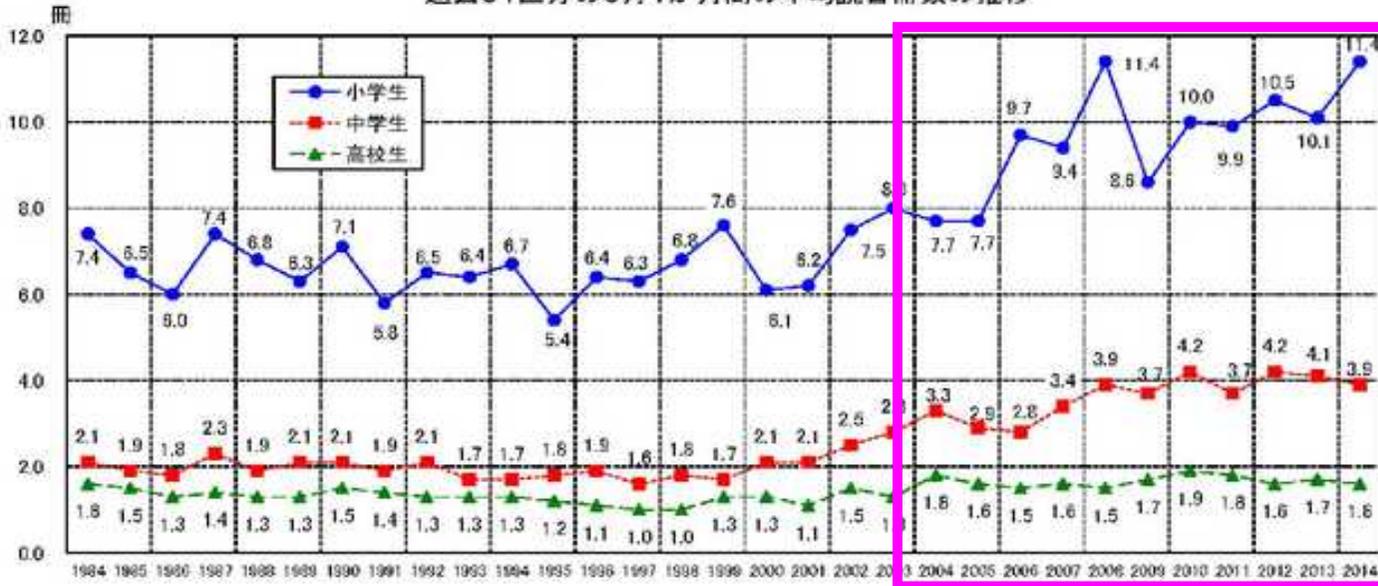
(出典) (財) 一ツ橋文芸教育振興協会、(財) 日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 - 日本・アメリカ・中国・韓国の比較 - (2009年2月)」より文部科学省作成

高校生の読書量について

○本を読まない高校生が48.7%。

○小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない。

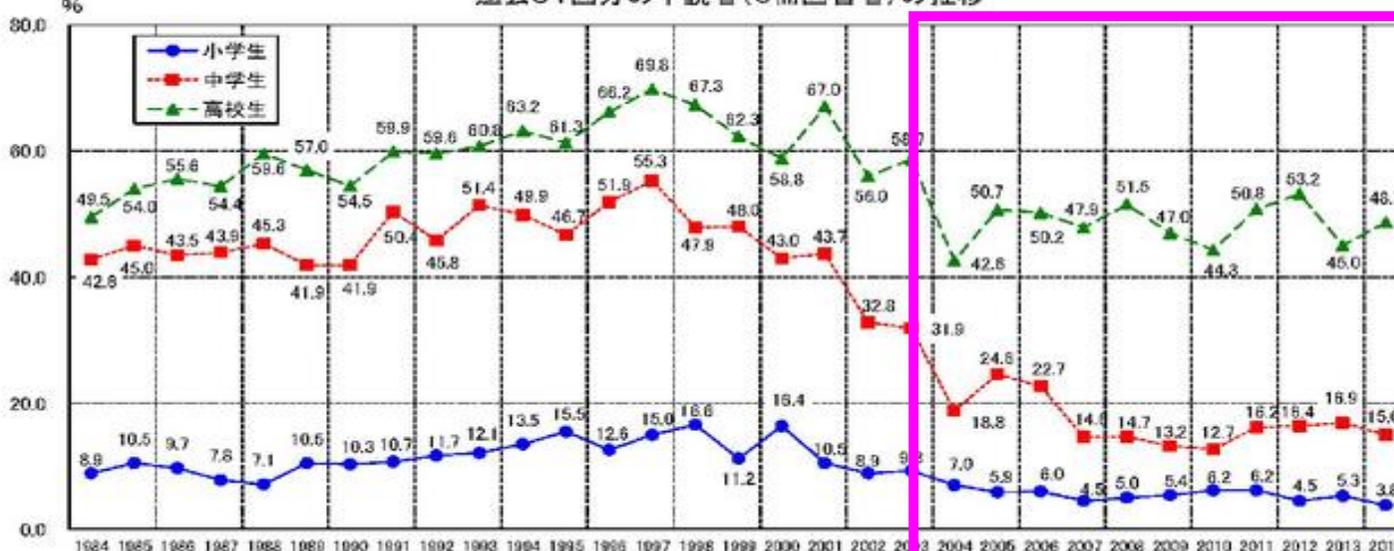
過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



○2014年5月の1か月間の平均読書冊数は、
小学生は11.4冊、
中学生は3.9冊、
高校生は1.6冊になっている。

○昨年度に比べ、小学生は大きく増加したが、
中学生・高校生は減少している。

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



○この調査では、5月の1か月間に読んだ本が
0冊の生徒を「不読者」と呼んでおり、今回の
調査の結果では、

不読者の割合は、
小学生は3.8%、
中学生は15.0%、
高校生は48.7%

となっている。

○昨年度と比べ、小学生・中学生は減少した
が、高校生は増加している。

(出典)第60回読書調査より(全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を実施。)

高等学校における「必修修教科・科目」と「共通必修修科目」について

「必修修教科・科目」について

- 学習指導要領に定める高等学校の必修修教科・科目は、「高等学校とは何か」ということを学習内容の面から国が示したものの。
- 必修修教科(国語など10教科)は、学習指導要領において、その教科を履修することが卒業の要件となっている教科であり、高校生にとって最低限必要な知識・技能と教養の幅を確保するために設けられている。
- それぞれの必修修教科には、当該教科の目標を達成させるための科目が複数置かれている。

「共通必修修科目」について

- 高等学校の教育課程の共通性を高めるため、全ての生徒が共通に履修する科目であり、高校教育としての共通の内容を端的に表すもの。
- 具体的には、「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を「共通必修修科目」として設定。

※現行学習指導要領における必修修教科・科目は別紙参照

(別紙)高等学校における必履修教科・科目一覧

教科	科目	標準 単位数	必履修 科目
国語	国語総合	4	○ 2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	┌ ○
	世界史B	4	
	日本史A	2	└ ○
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○ 2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
	理科	科学と人間生活	
物理基礎		2	
物理		4	
化学基礎		2	
化学		4	
生物基礎		2	
生物		4	
地学基礎		2	
地学		4	
理科課題研究		1	

教科	科目	標準 単位数	必履修 科目
保健 体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ Iを付した 科目から 1科目
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
書道Ⅲ	2		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○ 2単位まで減可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2		
家庭	家庭基礎	2	┌ ○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ ○
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○ 2単位まで減可

赤枠は共通必履修科目

科目の開設状況

注1 全日制課程における科目の開設状況について、学科ごとの割合を示している。

注2 平成25年度入学者に適用される3年間の教育課程を対象としている。

注3 共通必修科目，選択必修科目，選択科目の別なく，開設する全ての科目を対象としている。

注4 専門学科において，専門科目の履修をもって必修科目に代替する場合は，代替する必修科目に計上している。

(平成25年度入学者)

		普通科				専門学科				総合 学科
		1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語	国語総合	93.2%	3.5%	2.4%	6.8%	97.8%	50.7%	2.6%	1.7%	100.0%
	国語表現	0.1%	8.6%	37.8%	3.3%	0.2%	7.5%	42.6%	1.0%	75.8%
	現代文A	0.0%	7.0%	6.4%	1.5%	0.0%	7.4%	31.5%	0.7%	37.0%
	現代文B	0.0%	85.7%	88.9%	6.7%	0.1%	43.4%	51.3%	1.4%	88.2%
	古典A	0.0%	19.4%	20.7%	2.8%	0.0%	6.7%	8.5%	0.8%	57.2%
	古典B	0.0%	74.9%	77.6%	6.6%	0.1%	12.2%	12.4%	0.9%	80.5%
	数学	数学Ⅰ	92.7%	2.4%	5.2%	6.8%	96.2%	14.4%	3.3%	1.7%
	数学Ⅱ	20.7%	90.8%	44.0%	6.8%	2.4%	63.4%	49.6%	1.4%	96.3%
	数学Ⅲ	0.0%	19.4%	79.9%	6.7%	0.0%	1.3%	16.0%	0.9%	75.8%
	数学A	81.1%	13.2%	11.1%	6.8%	10.4%	38.4%	32.6%	1.6%	98.3%
	数学B	0.3%	78.6%	41.1%	6.8%	0.1%	14.3%	23.7%	1.2%	91.2%
	数学活用	0.0%	1.0%	6.5%	1.3%	0.0%	0.8%	4.5%	0.4%	22.9%
外国語	コミュニケーション英語基礎	5.0%	0.0%	0.0%	0.6%	13.2%	0.2%	0.2%	0.3%	6.1%
	コミュニケーション英語Ⅰ	90.2%	4.5%	1.6%	6.8%	81.9%	26.7%	9.3%	1.7%	100.0%
	コミュニケーション英語Ⅱ	0.8%	89.5%	23.1%	6.8%	0.1%	65.7%	52.4%	1.5%	94.9%
	コミュニケーション英語Ⅲ	0.0%	0.6%	77.2%	6.3%	0.0%	0.2%	15.1%	0.7%	70.0%
	英語表現Ⅰ	64.3%	18.1%	13.8%	6.8%	10.6%	18.5%	29.5%	1.1%	90.2%
	英語表現Ⅱ	0.5%	56.6%	65.1%	5.8%	0.3%	7.1%	11.6%	0.8%	55.2%
	英語会話	5.5%	6.3%	19.7%	2.6%	3.4%	10.5%	20.1%	0.6%	57.9%

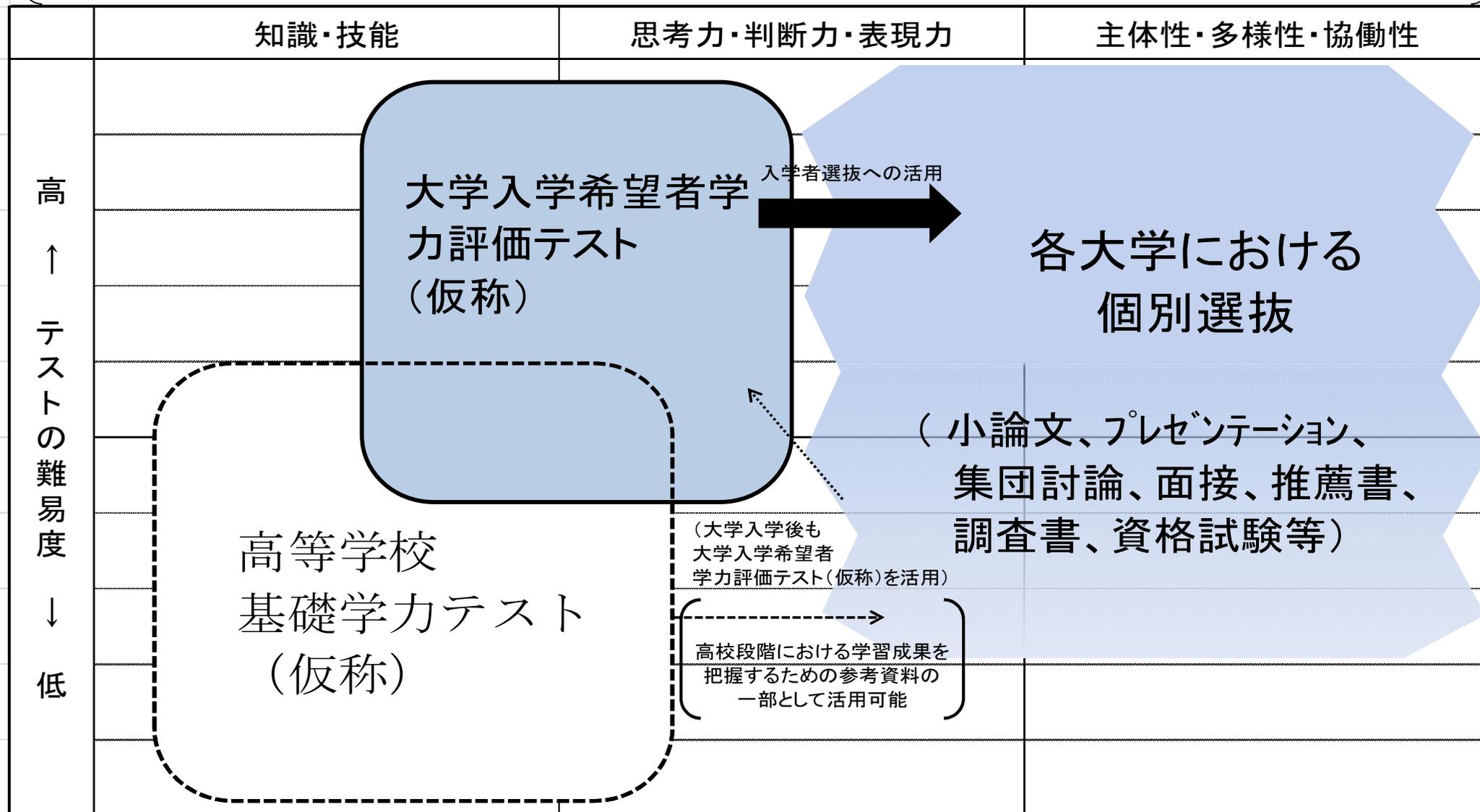
理科	科学と人間生活	13.0%	4.9%	5.8%	1.8%	53.7%	12.4%	8.7%	1.2%	72.1%
	物理基礎	30.9%	53.6%	13.2%	6.7%	9.9%	37.8%	12.6%	1.3%	88.2%
	物理	0.0%	39.5%	77.9%	6.5%	0.1%	4.4%	15.3%	0.9%	75.8%
	化学基礎	50.0%	44.0%	19.3%	6.8%	20.5%	27.9%	25.4%	1.6%	98.0%
	化学	0.0%	52.7%	80.8%	6.7%	0.3%	3.8%	11.6%	1.0%	87.5%
	生物基礎	54.9%	42.1%	19.8%	6.8%	14.6%	32.6%	25.4%	1.6%	99.0%
	生物	0.1%	45.8%	84.4%	6.7%	0.5%	3.6%	12.7%	0.9%	90.6%
	地学基礎	9.0%	30.1%	19.3%	4.5%	2.5%	4.5%	9.9%	0.9%	52.9%
	地学	0.0%	3.0%	14.1%	2.5%	0.0%	0.4%	1.1%	0.5%	19.2%
理科課題研究	0.0%	0.5%	2.5%	0.7%	0.3%	1.2%	1.2%	0.3%	6.1%	

地理 歴史	世界史A	28.0%	42.8%	13.6%	6.3%	19.1%	47.7%	28.1%	1.7%	96.0%
	世界史B	5.7%	55.0%	59.2%	6.4%	0.8%	5.9%	7.3%	1.0%	73.7%
	日本史A	5.5%	35.3%	18.3%	5.1%	3.6%	23.2%	29.7%	1.5%	86.2%
	日本史B	1.0%	65.1%	76.7%	6.8%	0.3%	6.9%	9.2%	1.0%	86.5%
	地理A	15.1%	26.0%	14.1%	4.9%	31.2%	22.5%	19.0%	1.4%	85.2%
	地理B	3.2%	46.5%	57.7%	6.3%	0.6%	5.9%	7.3%	0.9%	67.3%
公民	現代社会	56.0%	13.6%	23.1%	6.5%	42.8%	16.4%	38.0%	1.6%	97.6%
	倫理	3.0%	11.7%	41.2%	5.4%	0.7%	1.7%	7.1%	0.8%	55.6%
	政治・経済	2.0%	9.8%	68.0%	6.3%	0.4%	3.2%	21.0%	1.1%	81.1%

(出典) 平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の 難易度と大学入学者選抜への活用方策イメージ

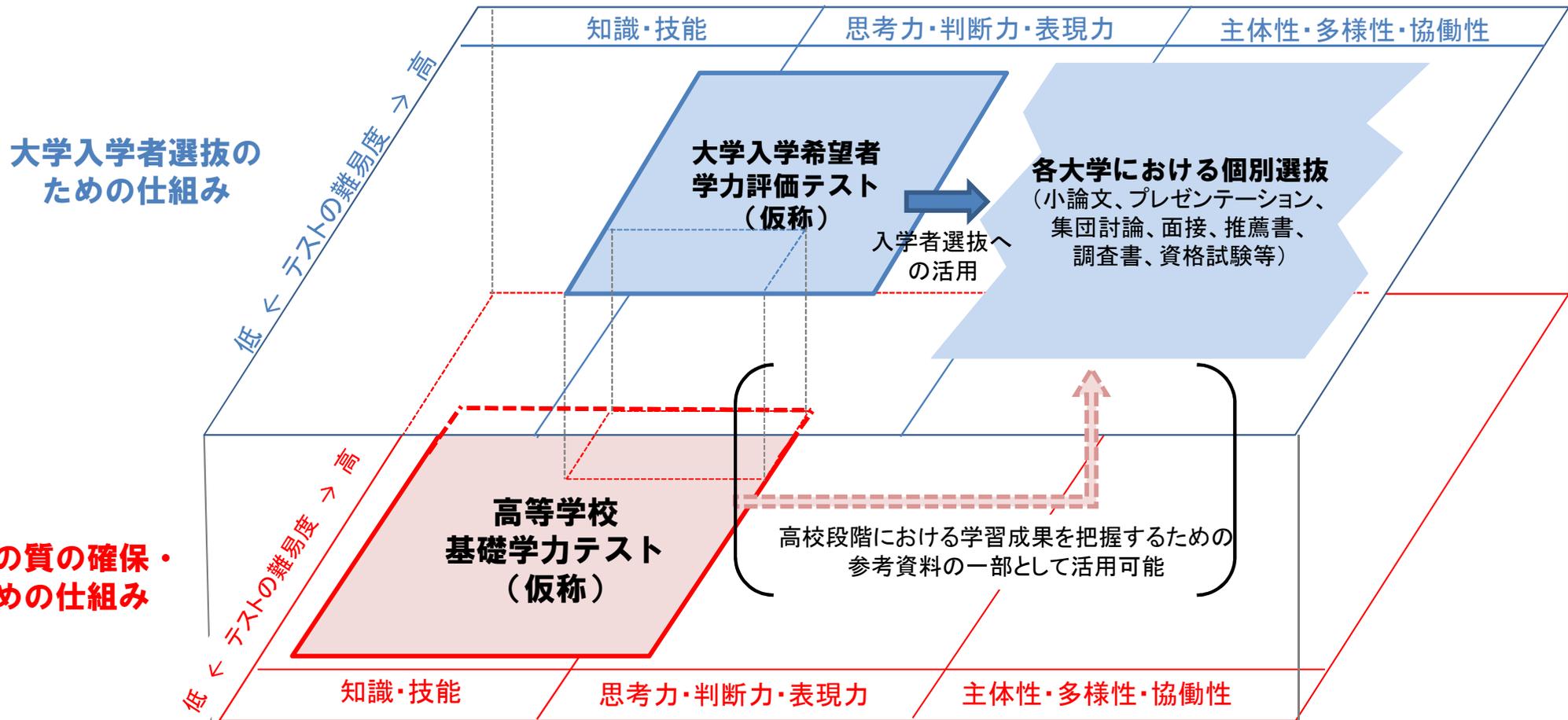
一般入試・推薦・AO入試の区分を廃止し、入学者選抜全体において、
アドミッション・ポリシーに基づき大学入学希望者の多様な能力を多元的に評価する選抜へ抜本的に改革



■ 大学入学者選抜のための仕組み。

⊞ 高校教育の質の確保・向上のための仕組み。

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の 難易度と活用方策イメージ



各種民間検定の概要について

検定区分	趣旨・目的	実施主体	試験結果を活用又は評価している主な団体	実施時期	実施方法	試験問題の作成・管理方法	費用負担	備考
実用英語技能検定	<p>・「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を、筆記・リスニング・スピーキングのテストで直接・的確に測定する検定試験を実施する。</p> <p>・年間受検者数は、約230万人。</p>	公益財団法人 日本英語検定協会	<p><高校入試> ・合格判定などに活用。 (高専・高校:約1,000校)</p> <p><大学・短大入試> ・合格判定などに活用。 (大学・短大:約600校)</p> <p><高校単位認定> ・単位認定する際に活用。 (高専・高校:約1,000校)</p> <p><大学・短大単位認定> ・単位認定する際に活用。 (大学・短大:約300校)</p> <p><高等学校卒業程度認定試験> ・英語の試験科目を免除する際に活用。(英検準2級以上合格)</p> <p><海外留学時の語学力証明資格> <教員採用試験> <国家試験(通訳案内士)> ・一次合格者は筆記(一次)試験の英語科目の受験免除。</p>	・年3回実施 (6・7月、10・11月、1・2月)	<p><実施結果> ・合否判定→5～3級、準2級、2級、準1級、1級</p> <p><試験形式> ・1次:5級～1級対象、筆記試験・リスニング ・2次:3級～1級対象、面接</p> <p><実施会場> ・1次試験:公開会場(全国約230会場)準会場 ※準会場:団体受検(学校・塾・企業等)の会場 ・2次試験:公開会場のみ</p>	<p><試験問題の作成> ・試験問題作成委員会において作成。</p> <p><試験問題の管理> ・管理に係る業務(印刷・保管等)を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。</p>	<p><利用者負担> ・検定料は、受験級によって異なる。 7,500円～1,200円</p>	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。
実用数学技能検定	<p>・数学の実用的な技能(計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明)を測る検定試験を実施する。</p> <p>・年間受検者数は、約30万人。</p>	公益財団法人 日本数学検定協会	<p><高専・高校・中学入試> ・合格判定などに活用。 (高専・高校・中学校:約460校)</p> <p><大学・短大入試> ・合格判定などに活用。 (大学・短大:約370校)</p> <p><大学・高専・高校での単位認定> ・単位認定する際に活用。 (大学・高専・高校:約240校)</p> <p><高等学校卒業程度認定試験> ・数学の試験科目を免除する際に活用。(数検2級以上合格)</p>	・年3回実施 (4・7・11月)	<p><実施結果> ・合否判定→12～3級、準2級、2級、準1級、1級</p> <p><試験形式> ・筆記試験のみ</p> <p><受験資格> ・特になし</p> <p><実施会場> ・全国約90会場(1～11級) (12級は自宅受検のみ。)</p>	<p><試験問題の作成> ・試験問題作成委員会において作成。</p> <p><試験問題の管理> ・管理に係る業務(印刷・保管等)を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。</p>	<p><利用者負担> ・検定料は、受験級によって異なる。 5,000円～1,500円</p>	

検定区分	趣旨・目的	実施主体	試験結果を活用又は評価している主な団体	実施時期	実施方法	試験問題の作成・管理方法	費用負担	備考
<ul style="list-style-type: none"> 硬筆書写技能検定 毛筆書写技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民一般の情操を豊かにし、書写技能の水準の向上を図り、教養を高めるとともに、一般社会に役立つよう、職場・職域における事務能力を高めるため、硬筆・毛筆書写に関する知識と技能を審査する。 ・年間受検者数は、全体で約10万人。 	一般財団法人日本書写技能検定協会	<ul style="list-style-type: none"> ＜大学・短大入試＞ ・合格判定などに活用。（大学・短大：76校、高校：59校） ＜大学・短大での単位認定＞ ・単位認定する際に活用。（大学・短大：5校、高校：324校） 	・年3回実施（6・11・2月）	<ul style="list-style-type: none"> ＜実施結果＞ ・合否判定→5級～2級、準1級、1級 ＜試験形式＞ ・筆記試験及び実技試験 ＜受験資格＞ ・特になし ＜実施会場＞ ・全国約50会場 	<ul style="list-style-type: none"> ＜試験問題の作成＞ ・試験問題作成委員会において作成。 ＜試験問題の管理＞ ・管理に係る業務（印刷・保管等）を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜利用者負担＞ ・検定料は、検定種・受検級によって異なる。5,000円～1,000円 	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。
実用フランス語技能検定試験	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語・フランス文化の普及を図り、もって我が国の文化の発展に寄与することを目的に実用フランス語に関する検定試験を実施する。 ・年間受検者数は、約3万人。 	公益財団法人フランス語教育振興協会	<ul style="list-style-type: none"> ＜大学・短大入試＞ ・合格判定などに活用。（全体の実績は不明） ＜高校・専門学校での単位認定＞ ・単位認定する際に活用。（全体の実績は不明） 	・年2回実施（6・11月）	<ul style="list-style-type: none"> ＜実施結果＞ ・合否判定→5級～3級、準2級、2級、1級 ＜試験形式＞ ・筆記試験及び聞き取り試験 ＜受験資格＞ ・特になし ＜実施会場＞ ・全国約40会場 	<ul style="list-style-type: none"> ＜試験問題の作成＞ ・試験問題作成委員会において作成。 ＜試験問題の管理＞ ・管理に係る業務（印刷・保管等）を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜利用者負担＞ ・検定料は、受検級によって異なる。11,000円～3,000円 	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。
家庭料理技能検定	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な食生活を支える家庭料理に関わる技能の普及を図り、その振興を期するとともに、健康と食生活の向上、食育の推進に資することを目的として検定試験を実施する。 ・年間受検者数は、約3,500人。 	学校法人香川栄養学園	<ul style="list-style-type: none"> ＜大学・短大入試＞ ・合格判定などに活用。（全体の実績は不明） ＜高校・専門学校での単位認定＞ ・単位認定する際に活用。（全体の実績は不明） 	・年1回実施（9月）	<ul style="list-style-type: none"> ＜実施結果＞ ・合否判定→4級～1級 ＜試験形式＞ ・筆記試験及び実技試験 ＜受験資格＞ ・特になし。 ＜実施会場＞ ・4級・3級：全国約80会場 ・2級：東京・大阪 ・1級：東京 	<ul style="list-style-type: none"> ＜試験問題の作成＞ ・試験問題作成委員会において作成。 ＜試験問題の管理＞ ・管理に係る業務（印刷・保管等）を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜利用者負担＞ ・検定料は、受検級によって異なる。17,000円～9,000円 	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。

検定区分	趣旨・目的	実施主体	試験結果を活用又は評価している主な団体	実施時期	実施方法	試験問題の作成・管理方法	費用負担	備考
<ul style="list-style-type: none"> 毛糸編物技能検定 レース編物技能検定 	<ul style="list-style-type: none"> 国民の編物に関する知識並びに技能・技術に対する社会的評価を高め、もって職業と生活の充実向上に資する検定試験を実施する。 <p>年間受検者数は、全体で約1,000人。</p>	公益財団法人日本編物検定協会	<ul style="list-style-type: none"> 〈高校・専門学校での単位認定〉 ・単位認定する際に活用。(全体の実績は不明) 	・年1回実施(9月)	<ul style="list-style-type: none"> 〈実施結果〉 ・合否判定(毛糸編物検定)→5級～1級(レース編物検定)→3級～1級 〈試験形式〉 ・筆記試験及び実技試験 〈受検資格〉 ・特になし 〈実施会場〉 ・全国約40会場 	<ul style="list-style-type: none"> 〈試験問題の作成〉 ・試験問題作成委員会において作成。 〈試験問題の管理〉 ・管理に係る業務(印刷・保管等)は外注せず、本部事務局が行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈利用者負担〉 ・検定料は、検定種・受検級によって異なる。9,000円～2,000円 	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。
<ul style="list-style-type: none"> 情報検定 ・情報活用検定 ・情報システム検定 ・情報デザイン検定 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なICT能力がビジネスの基本となった現代情報社会において有用な人材に求められるスキルである「専門力」「基礎力」「コミュニケーション能力」などのスキルを測る試験を実施する。 <p>・年間受検者数は、全体で約25,000人。</p>	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	<ul style="list-style-type: none"> 〈大学・短大入試〉 ・合格判定などに活用。(大学・短大:約70校) 〈大学・短大での単位認定〉 ・単位認定する際に活用。(大学・短大:約20校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・CBT方式:随時 ・ペーパー試験方式:年2回(12・2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 〈実施結果〉 ・合否判定(情報活用検定)→3級～1級(情報システム検定)→基本スキル～システムデザインスキル(情報デザイン検定)→初級～上級 〈受検資格〉 ・特になし 〈実施会場〉 ・全国約50会場 	<ul style="list-style-type: none"> 〈試験問題の作成〉 ・試験問題作成委員会において作成。 〈試験問題の管理〉 ・管理に係る業務(印刷・保管等)を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈利用者負担〉 ・検定料は、検定種・受検級によって異なる。4,000円～2,500円 	成績優秀者には、文部科学大臣賞等を授与。
<ul style="list-style-type: none"> 情報処理技能検定 ・日本語ワープロ検定 ・情報処理技能検定(表計算/データベース) ・文書デザイン検定 ・ホームページ作成検定 ・プレゼンテーション作成検定 ・パソコンスピード認定試験(日本語/英文) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報及び情報機器の活用能力の向上を図ることにより、分かりやすく情報を整理する力・表現する力・伝達する力などの情報活用能力が身につく試験を実施する。 <p>年間受検者数は、全体で約25万人。</p>	日本情報処理検定協会	<ul style="list-style-type: none"> 〈大学・短大入試〉 ・合格判定などに活用。(大学:約60校、短大:約50校) 〈ジュニアマイスター制度〉 ・(公社)全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度の対象。 	・年4回実施(7・10・12・2月)	<ul style="list-style-type: none"> 〈実施結果〉 ・合否判定(日本語ワープロ検定)→4級、3級、準2級、2級、準1級、1級(情報処理技能(表計算/データベース)→4級～1級(文書デザイン検定)→4級～1級(ホームページ作成検定)→4級～1級(プレゼンテーション作成検定)→4級～1級(パソコンスピード認定試験(日本語/英文))→5級～初段 〈試験形式〉 ・実技試験のみ。 〈受検資格〉 ・特になし 〈実施会場〉 ・全国約50会場 	<ul style="list-style-type: none"> 〈試験問題の作成〉 ・試験問題作成委員会において作成。 〈試験問題の管理〉 ・管理に係る業務(印刷・保管等)を担う業者とは秘密保持に関する契約を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈利用者負担〉 ・検定料は、検定種・受検級によって異なる。5,000円～1,500円 	

校長会等が実施する検定試験

実施団体等	No.	検定名	段級位等	検定日
日本農業技術検定協会	1	日本農業技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	標準テスト	—	2月
	2	計算技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	情報技術検定	1, 2, 3級	1月, 6月
	4	基礎製図検定	—	9月
	5	パソコン利用技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
	6	機械製図検定	—	6月
	7	リスニング英語検定	1, 2, 3級	10月
	8	初級CAD検定	—	7月
	9	グラフィックデザイン検定	1, 2, 3級	1月
(公財)全国商業高等学校協会	1	ビジネス文書実務検定試験	1, 2, 3, 4級(速記部門について、5段～初段の段位認定あり)	6月, 11月, 2月
	2	情報処理検定試験	1, 2, 3級	1月, 9月
	3	珠算・電卓実務検定試験	1, 2, 3, 4, 5, 6級	6月, 11月
	4	簿記実務検定試験	1, 2, 3級	1月, 6月
	5	英語検定試験	1, 2, 3, 4級	9月, 12月
	6	商業経済検定試験	1, 2, 3級	2月
	7	会計実務検定	財務諸表論、財務諸表分析	10月
	8	ビジネスコミュニケーション検定試験	—	7月
全国水産高等学校長協会	1	高等学校水産海洋技術検定	—	1～2月
	2	高等学校漁業技術検定	—	7～9月, 12～2月
	3	高等学校通信技術検定	—	1月
	4	高等学校海洋情報技術検定	1, 2級	2月, 7月
	5	高等学校栽培漁業技術検定	1, 2級	6月, 12月
	6	高等学校潜水技術検定	上, 1, 2, 3級	7～8月, 11～12月
	7	高等学校食品技能検定	1, 2, 3類	1月, 7月
	8	HACCP基本技能検定	—	1月, 7月
	9	高等学校エンジン技術検定	1, 2級	7～8月, 12～2月
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	1	全国高等学校家庭科技術検定(被服)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	2	全国高等学校家庭科技術検定(食物)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	全国高等学校家庭科保育技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 10月

◆ 第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）（抜粋）

成果目標5（社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例：国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

＜グローバル人材関係＞

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：50%、高等学校：75%）

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

（H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議）（抜粋）

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

生徒全体の英語力の傾向

- 「読むこと」「聞くこと」は、A1上位からA2下位レベルに集中。
- 「書くこと」の得点者は全体の約70%（無回答：29.2%）、「話すこと」の得点者は全体の約85%（無回答：13.3%）となっており、課題が大きい。

【国公立全体のスコア分布】

<読むこと>

CEFR	得点	Reading	割合
B2	320	77	0.2%
	310	18	
	300	27	
B1	290	37	2.0%
	280	69	
	270	82	
	260	107	
	250	157	
	240	195	
	230	317	
	220	420	
A2	210	561	25.1%
	200	778	
	190	1124	
	180	1477	
	170	1956	
	160	2610	
	150	3545	
	140	5245	
A1	130	8192	72.7%
	120	11790	
	110	12508	
	100	9796	
	90	4698	
	80	1823	
	70	604	
	60	208	
	50	76	
	40	51	
	30	19	
	20	2	
	10	0	
	0	285	
平均	129.4		
調査対象	68,854		

<聞くこと>

CEFR	得点	Listening	割合
B2	320	175	0.3%
B1	310	50	2.0%
	300	70	
	290	68	
	280	109	
	270	126	
	260	160	
	250	227	
	240	256	
A2	230	341	21.8%
	220	454	
	210	615	
	200	748	
	190	992	
	180	1241	
	170	1731	
	160	2199	
A1	150	2996	75.9%
	140	4034	
	130	5438	
	120	7684	
	110	8831	
	100	9026	
	90	7840	
	80	5782	
	70	3474	
	60	2125	
	50	920	
	40	396	
	30	189	
	20	106	
10	99		
0	352		
平均	120.3		
調査対象	68,854		

<書くこと>

CEFR	得点	Writing	割合	
B2	140	2	0.0%	
	135	0		
	130	3		
B1	125	7	0.7%	
	120	33		
	115	45		
	110	175		
	105	222		
	100	578		
	95	608		
	90	1,183		
A2	85	946	12.8%	
	80	1,804		
	75	1,736		
	70	1,971		
	65	1,816		
	60	2,347		
	55	1,978		
	50	2,516		
A1	45	2,111	86.5%	
	40	2,417		
	35	1,988		
	30	2,497		
	25	2,080		
	20	2,258		
	15	2,167		
	10	2,562		
	5	2,913		
	0	30,089		
	平均	27.2		
	調査対象	69,052		
	0点	20,139		29.2%

<話すこと>

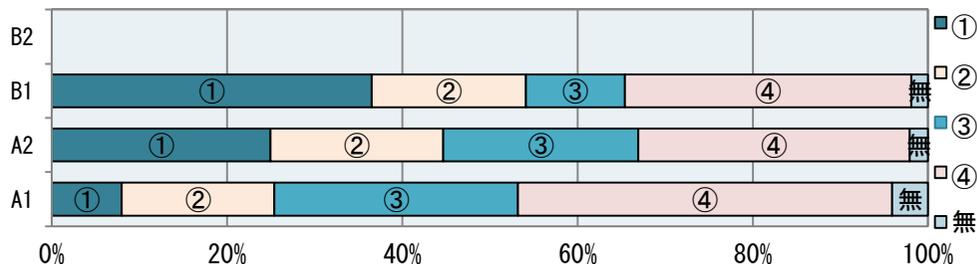
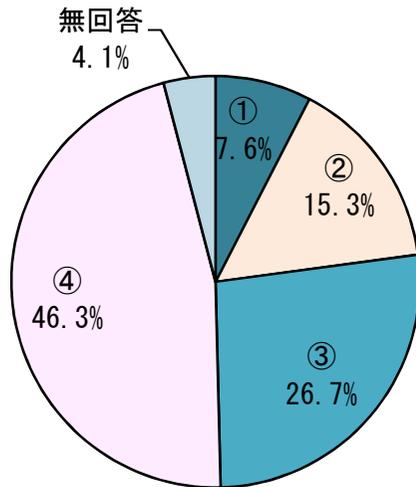
CEFR	得点	Speaking	割合
B1	14	274	1.7%
A2	13	272	11.1%
	12	415	
	11	501	
A1	10	657	87.2%
	9	691	
	8	770	
	7	946	
	6	1185	
	5	1632	
	4	1105	
	3	1648	
	2	1450	
	1	2827	
	0	2210	
平均	4.5		
調査対象	16,583		
0点	2,210	13.3%	

4 技能を通じた言語活動に対する意識

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒の比率が高い（公立）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

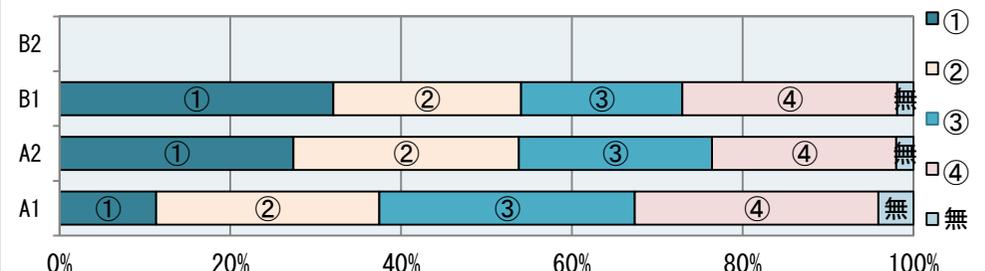
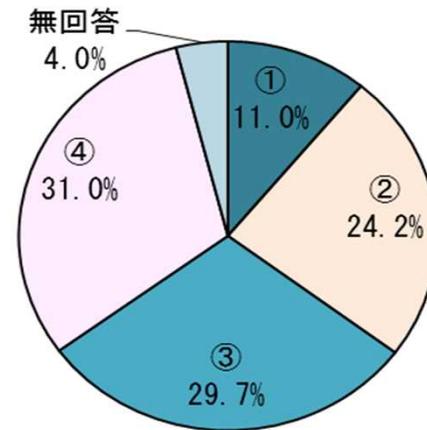


※「書くこと」の試験結果とのクロス。

- 聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしていると思う」生徒の比率が高い（公立）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「話すこと」の試験結果とのクロス。

学校の取組紹介①

思考力・表現力・表現力を伸ばす指導でコミュニケーション・ツールとしての英語力を鍛える

1 学校プロフィール(※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点, 学科名はⅠ～Ⅲで表示)

学級数・生徒数	Ⅰ学科／第3学年…2学級(83人)、Ⅱ学科・Ⅲ学科／第3学年…4学級(168人)
ALT活用状況	常勤のALTが1人。3年次はライティングの授業で、授業の4回に1回の割合で入る
備考	・スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ 4技能全体が全国平均を上回る。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	201.6	203.4	81.1	10.9
全国平均点(公立学校)	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ 生徒の英語学習の目的意識が高い。

- ◆ 「英語の学習は好きか」という質問に**7割以上(全国は約4割)**が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答。
- ◆ 将来の英語使用のイメージは、「国際社会で活躍できるようになりたい」、「大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになる」との回答が**49.6%(全国は12.2%)**
- ◆ 「聞いたり読んだりしたこと」について、「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**75.5%(全国は35.2%)**と高い。

4 特色ある授業内の取組

①教科書の英文に触れる機会を増やし、使える英語の習得につなげる

教科書の英文を何度も聞いたり読んだりする機会を与えることでコミュニケーション能力の向上につなげるとともに、様々なペア・ワークに取り組むなど工夫を凝らし、生徒の知的好奇心を喚起。

②思考力や表現力を伸ばす課題の設定

答えが一つではない問いを考えることで、より深い読みを促すとともに、生徒同士とのペア・ワークなどを通して、多様なもの見方があることを体感させる。

課題文を読んでエッセイを書くなど自分の考え・意見をアウトプットする機会が多い。

③自信を持ってコミュニケーションを図れる雰囲気づくり

自分の英語力に自信が持てず、抵抗を感じる生徒も少なくないため、生徒の知的好奇心を喚起するとともに、話しやすい教室の雰囲気づくりを意識。

特色ある授業外の取組

○生徒たちが自ら行き先を決める海外研修

1年次に海外研修を実施。生徒は研修内容(学校や企業訪問、インタビューなど)を計画し、現地の情報を調べて共有。



(英語の授業でディベートを実施している様子)



(英語プレゼンテーションコンテストの様子)



(海外研修の様子)

学校の取組紹介②：独自教材と共通の評価方法を用いて4技能を総合的に伸ばす

1 学校プロフィール(※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点)

学級数・生徒数	12学級(438人)／第3学年…4学級(149人)
ALT活用状況	常勤のALTが1人。1・2年次は各クラス週1回、3年次は各クラス2週間に1回。
備考	・独自教材を作成し、生徒の英語力に合った興味・関心を喚起する教材の利用と課題の設定を工夫・数年前まで生徒指導上の困難を抱えていた学校

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ テストスコアは平均をやや下回るも4技能にわたる言語活動が多く、バランスよく育成

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	113.2	108.2	16.1	3.0
全国平均点(公立学校)	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ 高3でもスピーチやプレゼンテーションなどの言語活動の実施率が高い。

- ◆「聞いたり読んだりしたこと」について、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**76.2%**(全国は**35.2%**)と高い。
- ◆ 英語でのスピーチやプレゼンテーションの実施率は、第3学年で**70%強**と**全国平均(22.9%)**を大きく上回っている。
- ◆ 生徒は言語活動主体の授業に好印象を抱いており、「英語での会話が楽しいので時間をもっと増やして欲しい」といった声が寄せられる。英語を話すことに対する抵抗感もなくなりつつあり、教員にも気軽に英語で話しかけてくる生徒が多くなった。

4 特色ある授業内の取組

①英語を使う素地をつくる「スモール・カンバセーション」

毎時間、冒頭10分間で、**生徒同士でペア**となり、初歩的な英語によるQ&A形式の会話を繰り返し行う。教科書の内容に関わる質問を盛り込み、学習事項の理解や定着を促す。

②英語での授業を徹底し、グループ単位の「スモール・プレゼンテーション」を多く取り入れる

扱うテーマに対する興味を喚起してから音声を聞き、いくつかの設問によって概要把握ができているかを確認。その上で、教科書本文の内容を図式化して構造的に理解し、総括となる課題(「ゴール・アクティビティ」)を与え、**長めの英作文やグループでの発表(スモール・プレゼンテーション)**などに取り組ませる。

③共通の評価項目で、スピーキング、リスニング、ライティングを評価

スピーキングテストでは**ペアで行う会話のテスト**や、教員と対面式の**インタビューテスト**を実施。ライティングテストは、定期考査のなかで**パラグラフ・ライティング**を実施。**同一の評価項目・評価方法**を用いることで、教員間で評価の差が出ないようにしている。

特色ある授業外の取組

○スピーチコンテストへの出場

県主催のスピーチコンテストに参加し、H25年度には県大会への出場。敗退したが、次年度へのモチベーションに繋がった。



(スモール・カンバセーションの様子)

(参考) 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

主な英語の資格・検定試験の概要

試験名	実施団体	受験人数	年間実施回数	成績表示方法	出題形式: 実施方式 (*1)	受験料
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公開 ※全世界では約250万人	2-3回	上初級~特上級(5つ) 可否、スコア(80-230)、グレード	L, R, W: 紙 S: ペア面接	PET(B1) 11,880円~ KET(A2) 9,720円~ (*5)
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約235.5万人 (H25実績)	3回	1級~5級 可否による表示 H27よりスコア併記予定	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学基準研究機構(CEES)と共催	非公表	3回 (H27)	0-1400点	L, S, R, W: CBT	9,720円
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	約73万人 (H26実績)	2回	0-810点	L, R, W: 紙 (S): タブレット(*3)	3,080円 L, R, W (5,040円 L, R, W, S)
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構 日本英語検定協会 等	約3万人 (H26実績) ※全世界では240万人	約35回	1.0-9.0 (0.5刻み)	L, R, W: 紙 S: 面接	25,380円
TEAP	日本英語検定協会	約1万人 (H26実績)	3回	80-400点	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	15,000円
TOEFL iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	40-45回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	L, S, R, W: CBT	230USドル
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成: ETS 日本事務局: GC&T	非公表	2-3回	0-352点	L, S, R, W: CBT	9,500円
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	約236.1万人 (H25実績) ※TOEICプログラム全世界700万人	10回	10-990点 (L, R各5-495点)	L, R: 紙	5,725円
TOEIC S&W	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	約1.5万人 (H25 実績) ※TOEICプログラム全世界700万人	24回	0-400点 (S, W各0-200点)	S, W: CBT	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

*2: Wは1級・準1級、Sは3級以上

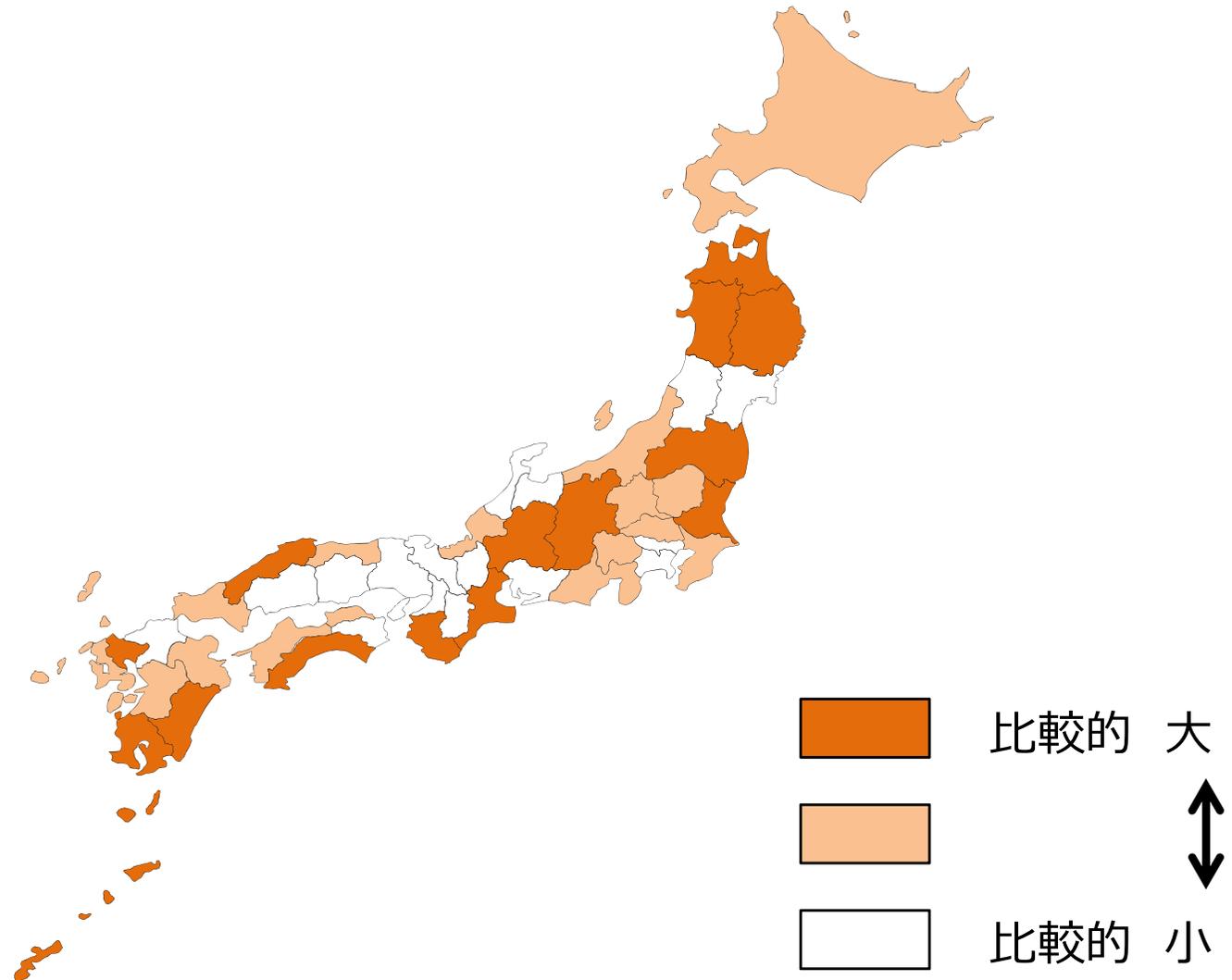
*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*5: 実施試験センターにより異なることあり

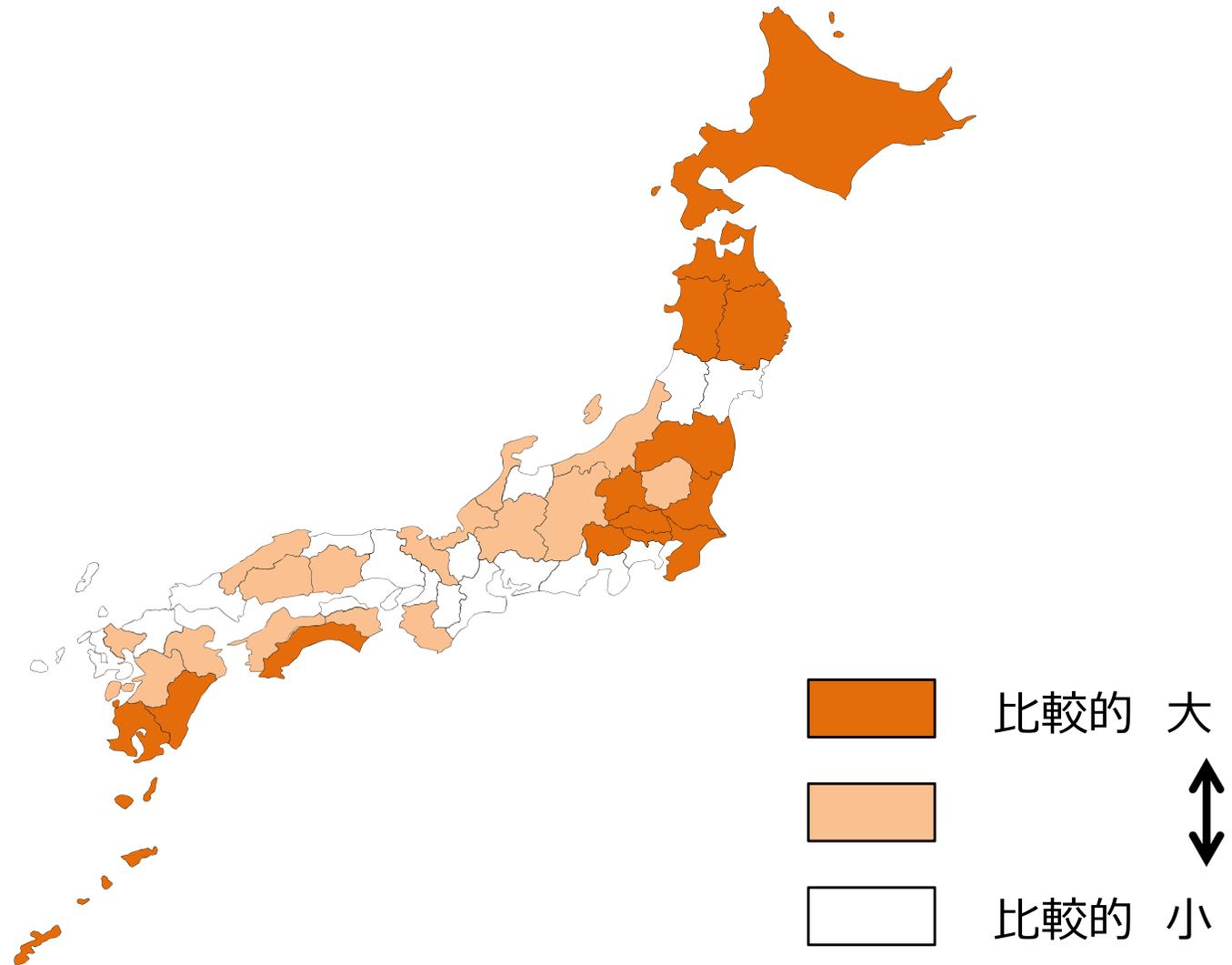
〈大学〉 全学生数に対する延べ回数の比率（延べ回数/全学生数）

都道府県	延べ回数の比率
秋田県	0.0567
福島県	0.0538
鹿児島県	0.0499
・	・
・	・
・	・
大阪府	0.0097
東京都	0.0076
京都府	0.0069



<高等学校> 全生徒数に対する延べ回数の比率（延べ回数/全生徒数）

都道府県	延べ回数の比率
秋田県	0.0245
鹿児島県	0.0219
岩手県	0.0207
・	
・	
・	
大阪府	0.0098
山形県	0.0090
富山県	0.0087



主な英語の資格・検定試験の出題意図・語彙数 等

試験名	目的・出題意図	語彙数	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携
Cambridge English (PET:CEFR B1)	英語圏における日常生活に必要なとされる実践的な英語力があるかを評価する	3,000語程度 (*1)	①約130カ国 ②英国、欧州、オーストラリア、ニュージーランド ③CaMLA(米国ミシガン大学)、OET(豪州)等
実用英語技能検定 (2級: CEFR B1)	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	4,000語程度 (*2)	①約50カ国 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等 ③アジア6地域7団体およびCRELLA(英国)
GTEC CBT	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	3,000～6,000語程度 (CEFR C1まで)	②北米(ELS Educational Services)
GTEC for STUDENTS	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	3,000語以下 ※タイプによって異なる (CEFR B2まで)	
IELTS	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	5,000～6,000語程度(*2)	①約140ヶ国以上 ②EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ等
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	2,000～5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	③CRELLA(英国)
TOEFL iBT	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	(R) 3,000語で90.45%をカバー 5,000語で95.37%をカバー (L) 3,000語で96.22%をカバー(*3)	①約130か国以上 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)、非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)
TOEFL Junior Comprehensive	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する。	3,000語程度 98%の単語がセンター試験に出現(*4)	①8か国(実施国数拡大中、2技能については既に50か国以上)
TOEIC / TOEIC S&W	和文・英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションができるかということの評価する。	4,000語以上 (*5)	①約150か国

*1: English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウントした概算 *2: BNC(British National Corpus) *3: BNC/COCA word-family lists < 第1回連絡協議会資料より > *4: 2006年以降のセンター試験。グローバル・コミュニケーション&テストニング独自調査(2014年)

*5: 外部リサーチャーが独自に行った調査結果「英検2級より多いがテレビ、ニュース番組よりは少ない」からの推計値

英語4技能資格・検定試験の活用事例

◇生徒・学生の英語力向上における活用例

<高校の例>

➤ ○○高等学校
コミュニケーション活動を重視した授業において、英検の過去問題を活用。生徒の意欲を引き出す。受験前には、英語科教員とALTで面接指導も実施。

➤ ○○高等学校
スピーチコンテストや短期留学等の取組を進める中で、英語力向上の目標として資格・検定試験を活用

<大学の例>

➤ スーパーグローバル大学等事業 採択大学
入学時から卒業時における目標を設定し、定期的にTOEFL等の試験を受け、卒業時には、実践的なコミュニケーションが可能なグローバル人材を育成

➤ ○○大学
大学で学習する際に必要とされる英語運用能力を正確に測定するテストを導入し、基準点を設け、入学者選抜の際にすると共に、入学後の習熟度別クラス編成にも活用することで、英語力向上のためのきめ細かな指導を実施

◇入試における換算方法等（例：出願要件、みなし満点、点数加算等）の例

<いわゆる「みなし満点」>

➤ ○○大学（一般入試）
TOEFL iBT71点以上
TOEFL PBT530点以上
英検準1級
IELTS 4技能6.5以上のスコアまたは等級を所持している者については、大学入試センター試験の英語科目を満点とし換算して、合否判定を行う

<点数加算の例>

➤ ○○大学	➤ ○○大学
TOEFL 48点以上 5点	英検2級以上 10点
61点以上 10点	英検準2級 8点
79点以上 25点	英検3級 6点
100点以上 50点	

➤ ○○高等学校
推薦入試において英検3級以上で加点

<出願要件の一部、英語試験免除>

➤ ○○大学
【自己推薦入試等：免除】
TOEFL68点以上（経済、商学関係）
【英語運用能力特別試験：出願要件】
TOEFL68点以上
（法学・政治学、国際関係）

➤ ○○大学（一般入試）
英検2級以上：英語学力試験を免除

<高校入試の例>

➤ 大阪府における取組
入学者選抜においてTOEFL iBT、IELTS、英検のスコア等を一定の得点に換算し、学力検査の英語の得点と比較して高い方の得点を学力検査の得点とする（平成29年度より開始）

高等学校卒業程度認定試験

1 趣旨

高等学校卒業程度認定試験(以下「高卒認定」という。)は、高校を卒業していないなどのため、大学等を受験できない者に対し、高校卒業者と同等以上の学力があるかどうかを認定する試験であり、合格者には、大学・短大・専門学校への入学資格を付与している。また、就職・資格試験等においても高校卒業者と同等に扱われるよう、経済界等に働きかけ、社会的通用性を高めるよう努めている。さらに、平成19年度からは、法務省と連携し、全国の矯正施設においても試験を実施し、受験機会の拡大を図っている。

2 受験資格

16歳になる年度から受験できる。ただし、既に大学入学資格を有している場合は受験できない。

※ 従前の大学入学資格検定では認められていなかった、全日制高等学校等の在籍者にも受験資格を付与している。

3 開始年度

平成17年度(大学入学資格検定:昭和26年度)

4 試験科目・合格要件

国語, 世界史(A, B), 日本史(A, B), 地理(A, B), 現代社会,
倫理と政治・経済, 数学, 科学と人間生活, 物理基礎, 化学基礎
生物基礎, 地学基礎, 英語

※ 合格者が18歳未満の場合は、満18歳の誕生日から合格者となる。

※ 合格科目は、学校長の判断により卒業単位として単位認定することができる。

5 実施回数・時期

毎年2回(8月、11月)

6 実施場所

都道府県毎に1会場(47会場)、
全国の少年院、刑務所等の矯正施設
(平成26年度は延べ179か所)

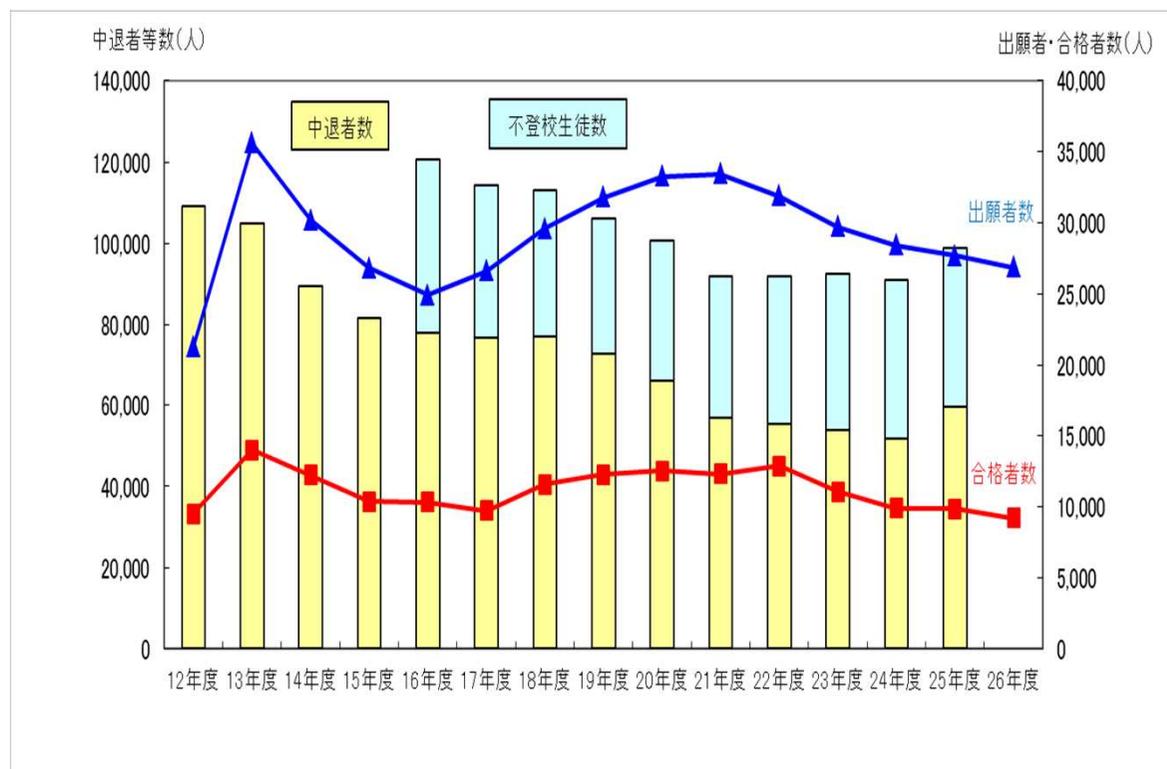
7 受験料

7科目~9科目 8,500円

4科目~6科目 6,500円

1科目~3科目 4,500円

高卒認定制度が創設された平成17年度より出願者は増加傾向にあったが、平成22年度からは減少傾向にある。また、最終学歴別出願者数の割合は、高校中退が約5割を占めている



これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について①

(教員養成部会中間まとめの概要)

<p>背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第9条の趣旨を踏まえた「学び続ける教員像」の具現化への要請 ・学校を取り巻く環境変化(大量退職・大量採用等) ・教育課程の改革:育成すべき資質・能力を明確化、教科・科目の在り方や教育目標・内容の見直し ・授業方法の革新:主体的・協働的な学習(アクティブ・ラーニング)の充実 ・英語、道徳、ICT、特別支援教育など、新たな教育課題への対応 ・「チーム学校」への転換:チームの一員として組織的、協働的に諸課題の解決のために取り組む力を育成 			
<p>これからの時代の教員に求められる資質能力</p>	<p>教員としての使命感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力など従来必要とされてきた不易の能力に加え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージに応じた資質能力を高める自律性 ・情報を収集・選択・活用する能力や深く知識を構造化する力 ・学校を取り巻く新たな教育課題に対応できる力量 など 			
<p>主な課題</p>	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の養成・採用・研修の一体的改革のため、大学等と教育委員会の連携を図るべく、国、教育委員会、国公私を通じた教職大学院、大学、学校等の位置付けなどを明確化した具体的な制度的枠組みが必要。 ○ この際、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の特徴や違いを踏まえ、制度設計を進めていくことが重要。 ○ 新たな教育課題(アクティブ・ラーニングの充実、ICTを用いた指導法、道徳、英語、特別支援教育など)に対応した研修・養成が必要。 <p><研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員研修の機会の確保のため、学校における業務の精選や効率化、教職員の役割分担の見直し、チームとしての学校の力の向上やそのための条件整備が必要。 ○ 講義形式の研修からより主体的・協働的な学びの要素を含んだアクティブ・ラーニング型研修への転換。 ○ 新たな教育課題に対応した研修プログラムの開発と全国的な普及、研修指導者の育成、教育センターや学校内での研修体制の充実が必要。 ○ 初任者研修・十年経験者研修については、実施状況や教育委員会・学校現場のニーズを把握し、より効果的な研修となるよう制度や運用の見直しが必要。 ○ (独)教員研修センターの役割の在り方の検討が必要。 	<p><採用></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 採用時に求める教員像の明確化、選考方法の工夫が必要。 ○ 多様で多面的な選考方法のためにも、各教育委員会が実施する採用選考試験への支援策が必要。 ○ 計画的採用による学校内の年齢構成の不均衡の是正が必要。 	<p><養成></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 養成段階は「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」を行う段階との認識が必要。 ○ 実践的指導力の基礎の育成、教職課程の学生が自らの教員としての適性を考えるための機会として、学校現場や教職に関する実際に体験させる機会の充実が必要。 ○ 教職課程の質の保証・向上のため、事後評価の実施や全学的に教職課程を統括する組織整備の促進が必要。 	<p><免許></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校種横断的な免許状の創設等の必要性を指摘する意見がある一方、当該免許状の有効性への疑問や免許状制度の一層の複雑化、学生や大学への負担の増加等の課題も指摘。 ○ 義務教育学校制度の創設や学校現場における多様な人材の確保への対応としての免許制度の改善が必要。

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について②

(教員養成部会中間まとめの概要)

<全般>

○教員育成指標及び研修指針の策定

- ・高度専門職として教職キャリア全体を俯瞰しつつ、教員がキャリアステージに応じて身につけるべき資質や能力の明確化
- ・教員育成指標の全国的な整備、教育委員会による研修計画の策定
- ・国が大綱的に教員育成指標の整備指針や研修計画策定の指針を提示
- ・国等の関係者が教職課程編成にあたり参考となる指針(教職課程コアカリキュラム)を提示
- ・大学は教職課程コアカリキュラムや教員育成指標を踏まえ養成すべき教員像を明確化
- ・各地域の自主性・自律性が最大限発揮されるスキームとする
- ・それぞれの学校種における教員の専門性を十分に踏まえつつ、必要に応じ学校種ごとに策定

○教育委員会と大学等との協議・調整のための体制(教員育成協議会(仮称))の構築

○新たな教育課題(アクティブ・ラーニングの充実、ICTを用いた指導法、道徳、英語、特別支援教育など)に対応した研修内容の充実、教職課程の改善

<研修>

○継続的な研修の推進

- ・校内研修体制の充実・強化
- ・研修指導者の育成
- ・メンター方式の研修(チームとしての研修)の推進
- ・教職大学院等との連携、教員育成協議会(仮称)の活用

○初任研改革

- ・先駆的取組を参考とした改善方策の検討
- ・初任者研修の運用方針の見直し(2年目、3年目研修の実施などの弾力化)

○十年研改革

- ・研修実施時期の弾力化
- ・目的・内容の明確化(ミドルリーダー育成)

○(独)教員研修センターの機能強化

- ・各地域における教員研修施設や教職大学院などの大学等とのネットワーク構築
- ・教員の資質能力向上に関する調査・分析・研究開発を担う全国的な拠点機能の整備

○研修実施体制の整備・充実

- ・研修機会の確保等に必要な教職員定数の拡充
- ・研修リーダーの養成、指導教諭や指導主事の配置の充実



<採用>

○円滑な入職のための取組(教師塾等の普及)

○教員採用試験の共通問題の作成に関する検討

○特別免許状の活用等による多様な人材の確保

○採用における年齢不均衡の是正や採用選考の実施時期の改善についての検討



<養成>

○学校インターンシップの導入(教職課程への位置付け)

○教職課程の質の保証・向上

- ・教職課程を統括する組織の設置
- ・教職課程の評価の推進
- ・教職課程担当教員の資質能力向上等
- ・教科に関する科目の充実



<免許>

○免許制度改革

- ・中学校及び高等学校の教員免許状所有者による小学校での活動範囲の拡大
- ・教職経験を考慮した免許状併有の促進

○特別免許状授与の手続き等の改善

○特別支援学校教諭等免許状の保有率促進

改革の
具体的な
方向性

<教員の資質能力の高度化>

- 拡充期を迎えた教職大学院の在り方(量的な整備、教育委員会や(独)教員研修センターとの連携による研修の開発・充実)
- 教職大学院等における履修証明制度の活用等による教員の資質能力の高度化
- 教員養成系以外の修士課程における教員養成機能の充実